

出雲市の国富町（旧平田市）に『マチエール』という食事メニューが充実した昭和感漂う喫茶店があります。商店が立ち並ぶ街中から少し離れたところにひっそりと佇んでいるのですが、以前テレビ番組で中居正広さんが訪れてから広く名が知られるようになったらしく、休日のお昼時に行くとお客さんで賑わっています。

この名物（？）料理にタイソンカレーセットがあります。名前から想像するとメガ盛りレーンっぽいと思われるかもしれませんが、あにはからんやソース焼きそばとカレーライスが同時に味わえるという子供舌爺さんにとって夢のようなメニューなのです。

過日、念願叶ってこのタイソンカレーセットにありつくことができました。大き目のプレートに左側に焼きそば、右側にカレーライスが盛られ、少しですが生野菜も添えられています。おまけに味噌汁付です。

勿論焼きそばには紅生姜、カレーには福神漬が添えられています。この紅生姜と福神漬の赤赤コンビが応にも食欲をそそり、もしこれが学校給食で出てきたら児童生徒は大喜び、テレビドラマ『おいしい給食』の甘利田先生が見たら

きつと卒倒してしまうに違いなビジュアルです。

それではいただきます。私は元々左利きで箸とスプーンは殆ど両刀遣い状態なので、左手で箸を使って焼きそばを啜り右手にスプーンを持つってカレーを食らうのです。もう至福のひと時としか表現の仕様がありません。焼きそばの味付けはちよつと薄めですが、野菜がたっぷりで麺が香ばしく炒められていて生卵が乗っています。カレーは辛さは控えめながら材料の旨みが溶け込んだ家庭的な味です。案の定、焼きそばとカレーの相性は抜群です。

ところがこのタイソンカレー、食べ進めていくうちに妙な具合になってきます。焼きそばに生卵を崩して絡めるのですが、そうするとカレーにも卵を少し絡めたくくなります。そうやって焼きそば、生卵、カレーライス……と忙しく摂取していくうちにプレートの上がカオスと化していくのですね。

そう、最終的にそれらが一体化して「私は今何を食べてるんだろう？」になってくるのです。次回臨むときは食べ方に一考の余地がありそうです。



専業ババ奮闘記（その2）85

木幡智恵美

ショートステイ（4）

病院からショートステイへの移行は、入院前まで通っていたデイサービスと同じように思えたのか、拍子抜けするほどすんなりだった。面会には、入院していた時と同様、夫と一日交替で行くことにする。ショートステイの職員さんは若い方もベテランの方も接し方が暖かい。ケアマネさんからは、食事の摂取量が少ないので捕食を持ってきてくださいとか、便が出ないので座薬を買ってきてくださいとか逐一連絡いただいた。面会に行く際、飲むゼリーや、手作りのデザートを持参し、必要な時には薬局で薬を買って持って行った。

入浴中だと言われた日のこと、風呂から上がった褥瘡の手当てをしているところに立ち会った。傷跡はほとんどよくなっていた。退院前カンファレンスを受け、褥瘡を防ぐための車椅子に当てるクッションや、ベッドに乗せるクッションもケアマネさんが選んでくださった。病院ではほとんど寝たきりの生活だったのが、ここでは日中はデイサービスの人が交じってテーブルを囲んで歓談したり、カラオケで歌ったり、起きて車椅子に座る時間が長くなったことも褥瘡を快癒させたのだろう。

コロナ禍で、面会は原則一人ずつで時間も制限されている。ある時、ふと思いつき、職員さんに聞いてみた。「窓越しにひ孫たちの顔を見てもいいですか」と。かまわないということだったので、小春日和というより、日中は汗ばむほどに感じられた日の夕方、夫が面会に行く日、時間をずらして娘と三人の子どもたちを連れて追いかけた。小規模多機能の建物の裏手に回ると、カーテンが開いていて、義母の部屋の入口から夫と義母がこちらを向いて笑っている。娘と私で、寛大、実歩、宗矢を順に抱いてガラス窓越しに義母と面会させた。ガラス窓の外にまで、甲高い義母の、「寛大ちゃん」「みーちゃん」「しゅーちゃん」の声が聞こえてきた。きつと忘れていたと思う。次の日の面会の時に、「寝ている義母を起こして尋ねたら、「まだ」と言う。ちゃんと覚えていたのだ。

その話を義姉にしたところ、数日後、姪二人がそれぞれの子どもを連れてガラス越し対面にやってきた。そういうこともあつてか、食事も少しづつ摂れるようになり、病院に居た頃とは見違えるように表情が明るく、元気になっていった。

30代フリーター やあ、ジイさん。先週は謝罪の話が憲法の話で終わった。

9条の理念は戦後の国民のアイデンティティーとなったので、その改変を国民投票にかければ、拒絶反応が起きるのは避けられない、とジイさんは言っていた。だが、去年10月の朝日新聞の世論調査では、9条に自衛隊の位置づけを書き加える自民党の改憲案に賛成が47%と、反対の32%を上回った。国民投票で可決される可能性は高い。

年金生活者 世論調査の結果とは逆になった大阪都構想の住民投票の例を考えると、そうとばかりは言えない。

大阪都構想の例を引き合いに出したのは、都構想も憲法9条も住民あるいは国民のアイデンティティーにかかわる点で共通しているからだ。大阪都構想は2度の住民投票とともに僅差で否決された。2度目の投票（2020年11月）の前に読売新聞が大阪市民を対象に実施した世論調査では、「反対」と答えた人の理由で最多だったのは

い。改憲の議論は自民党が党内の結束をはかるときの常套手段であり、岸田もそれを採用しているように見える。

30代 彼は去年暮れ、自民党の憲法改正実現本部の会合に出席し、9条への自衛隊の明記や緊急事態条項の新設など党の改憲案4項目について「早急に実現しなければならぬ内容と信じている」と強調した（共同通信、2021年12月21日）。

年金 それをとらえて与良正男という毎日新聞の編集委員が、安倍晋三に距離を置きつつある岸田にとって「改憲は首相と安倍氏をつなぎ留める、数少ない接着剤であり、重要な政権維持装置」と書いている（『安倍離れ』を目論む岸田首相の深謀遠慮）、nippon.com、1月14日）。つまり、改憲を唱えているのは自らの政権のもとでの党内結束を乱さないようにするため、という見方だ。

2009年に民主党に政権を奪われ、結党以来の危機に陥った自民党が憲法改正草案をまとめたのも、党の結

「大阪市がなくなるから」の73%だった（複数回答）。

この回答は、大阪市がなくなると行政サービスで不利益をこうむるといった実利的な事情からというよりも、大阪市の存続そのものを切望する気持ちをもとにしていると解釈するべきだろう。大阪市民の多くが大阪市の消滅を自らのアイデンティティーの損傷ととらえたということだ。

それが土壇場で投票結果を左右したと考えることができる。同じ読売新聞の世論調査では、都構想に賛成44%、反対41%だったのに、投票ではそれが逆転した。感情が実利を凌駕したということだ。9条の書き換えに反対する国民の気持ちについても同様のことが考えられる。

30代 9条に自衛隊を明記すれば戦争になると考えている国民は少ないはずだし、むしろ明記したほうが抑止力を高めることができると考えている国民が多いだろう。実利で考えればそういう判断に傾く。

束を保つのが大きな狙いのひとつだったはずだ。「自主憲法制定」は自民党を自民党たらしめているほとんど唯一の理念と言っている。それが理念たり得ているのは、戦後の日本国家の最大の理念である憲法9条の非戦・非武装に対抗するものだからだ。

改憲を悲願とする安倍晋三が、歴代

年金 そう考えながらも、9条の改変には賛成できない国民は多いはずだ。

なぜなら、この条項の非戦・非武装の理念は、第2次世界大戦で一敗地に塗れた日本国民に戦後を生きていくうえでどのよりどころ、つまりアイデンティティーを与えたからだ。

9条を含む憲法はアメリカが押しつけたものだが、戦争は金輪際いやだという国民の心情と共振した。それだけではない。天皇を尊ぶ国民の歴史的な心情とも、目に見えないところで共振した。9条の押しつけは日本政府が1条の存在、つまり天皇制の存続を条件に受け入れたものであり、それが国民の9条への支持をいつそう強化したと見ることができる。

そう考えると、9条に自衛隊を明記する改憲案は、都構想のように土壇場で反対が多くなり、否決される可能性がある。

30代 ハト派の岸田文雄が憲法改正に前のめりの姿勢を見せている。年金 本気でやるつもりなのか疑わし

最長政権という幸運を手に入れながら、手をつけることのできなかった改憲を、岸田が実行に移せると考えるのは難しい。彼はこの先も「改憲」を唱えて「政権維持装置」を稼働させ続けるだろう。それは改憲の実現の可能性が高まることを意味しない。

30代 北朝鮮が今年4回目のミサイルの発射実験をしたとき「重大かつ差し迫った脅威だ」と防衛相が強調した、と報じられている（日本経済新聞WEB版、1月18日）。改憲の追い風になるかもしれない。

年金 北朝鮮の核・ミサイル開発は、核を一部の大国が独占する「不均衡」を「均衡」に向かわせる動きとみなすことができる。核兵器禁止条約は同様のことを反対方向から目指す動きだ。北朝鮮の核開発が核を増やすことによつて「均衡」をはかろうとしているのに対し、核禁条約はゼロにすることによる「均衡」を目指す。日本国憲法9条の核兵器版であり、改憲には向かい風も吹いている。

ニュース日記 817
中村 礼治

憲法に吹く風